

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	32102301	
事務事業名	歴史民俗博物館企画展事業	
予算書の事務事業名	2. 歴史民俗博物館企画展事業	
事業期間	開始年度	昭和62年度
	終了年度	
	当面継続	
	業務分類	5. ソフト事業
実施方法	○ 1. 指定管理者代行	○ 2. アウトソーシング
	○ 3. 負担金・補助金	● 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	08030200
部名等	教育委員会事務局	
課名等	生涯学習・スポーツ課	
係名等	文化係	
記入者氏名	塩田 明弘	
電話番号	0765-23-1045	

政策体系上の位置付け	コード2	321023
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第2節 地域に根ざした文化とスポーツの振興	
施策名	1. 文化の振興	
区分	文化財	
基本事業名	文化財の保護・活用の推進	

予算科目	コード3	001100509
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	9. 文化費	

◆事業目的・概要（どのような事業か） 常設展示とは別に、テーマを設けて展示を行う企画展を開館期間中1回実施した。				単位	実績		計画			
					20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
対象	（この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など） 市民、県内外観光客		① 市民	人	46,036	45,562	45,000	45,000	45,000	
			②							
			③							
手段	<平成21年度の主な活動内容> 戦国武将上杉家と魚津展を6月3日から11月15日まで開催。 *平成22年度の変更点 国道8号バイパス建設に伴う発掘調査の成果からわかった古代の魚津の様子を紹介する特別展を開催する。		① 企画展の入館者数	人	1,864	5,981	2,000	2,000	2,000	
			②							
			③							
意図	（この事務事業によって、対象をどのように変えるのか） 展示会を実施することで、地元魚津の歴史や今も伝わる貴重な文化財を知ることができる。		① 企画展の入館者数/市民	人	0.04	0.13	0.04	0.04	0.04	
			② まちづくり市民意識調査 郷土の歴史や伝統などが継承され、自然に育まれた文化が豊かである。	%	24.80		33.00	36.00	39.00	
			③							
その結果	<施策の目指すがた> 郷土の歴史、伝統、自然に育まれた特徴的な文化が普及しています。		↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入 企画展に関する入館者を対象にしたアンケート							
◆この事務事業開始のきっかけ（何年<頃>からどのようなきっかけで始まったか） 昭和62年吉田記念郷土館が開館し、従来の常設展示以外に、特別展示室が設けられたことから、以後年3～4回の企画展が実施されてきた。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
				(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	0
				(3)その他（使用料・手数料等）	(千円)	0	0	0	0	0
				(4)一般財源	(千円)	319	472	385	385	385
				A. 予算（決算）額（(1)～(4)の合計）	(千円)	319	320	385	385	385
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化（法改正、規制緩和、社会情勢の変化など） 指定管理者制度による博物館運営の民間委託など。以前管理業務の民間委託を実施していたが、現在は直営としている。				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	4	4	4	4
				②事務事業の年間所要時間	(時間)	442	490	400	400	400
				B. 人件費（②×人件費単価/1,000）	(千円)	1,859	2,060	1,682	1,682	1,682
				事務事業に係る総費用（A+B）	(千円)	2,178	2,380	2,067	2,067	2,067
				（参考）人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見（担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質などを記入） 魚津が生んだ偉人の紹介をしてほしい。NHK大河ドラマ「天地人」で魚津城の戦いがクローズアップされており、展示会の開催を望まれていた。				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
				● 把握している ○ 把握していない	展示会図録や展示会開催のポスターなど					

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
☒ 直結度大 ☐ 直結度中 ☐ 直結度小	説明 開催により市内の歴史や文化財を紹介できた。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
☐ 法令などにより市による実施が義務付けられている ☒ 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 ☐ 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 ☐ 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 ☐ 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はない。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 展示会の見学会の開催や解説資料の作成、広報活動の充実。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 事業費はポスターなどの印刷製本費が大半を占めこれ以上の削減はできない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 現時点で最低限の人員しかおらずできない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者なし・負担なし 適正化の余地なし	説明 平成12年度までは入館料を徴収。広く市民に魚津の歴史を伝えるために無料化を実施。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
☐ 高い ☐ 平均 ☒ 低い	説明 県内他市の郷土博物館は、無料の施設と有料の施設がある。本施設の場合、広く市民に歴史や文化を紹介する目的で、入館料を無料にしている。今後、常設展示は、無料を続けるが、企画展については内容によって、有料化も考慮できる。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
☐ 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い ☐ 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い ☒ 比較的多くの市民などがニーズを感じている ☐ 一部の市民などに、ニーズがある ☐ 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある ☐ 目的はある程度達成されている ☐ 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
☐ 緊急性が非常に高い ☐ 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす ☒ 市民などのニーズが急速に高まっている ☐ 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい ☐ 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括			
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 目的廃止又は再設定の余地あり	
② 有効性	☐ 適切	☒ 成果向上の余地あり	
③ 効率性	☒ 適切	☐ コスト削減の余地あり	
④ 公平性	☒ 適切	☐ 受益者負担の適正化の余地あり	
(2) 今後の事務事業の方向性			
☐ 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 ☐ 終了 ☐ 廃止 ☐ 休止		年度	
☐ 他の事務事業と統合又は連携 ☐ 目的見直し ☒ 事務事業のやり方改善			

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)			コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成23年度)	展示会は長期間の開催であり、開催回数・期間を次年度より見直す。	コストの方向性
	中・長期的 (3～5年間)	博物館収蔵資料のうち、公開していないものや未調査なものを調査研究し、順次公開していく。	維持 成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

専任の学芸員がいない博物館であるが、できるだけ未展示の収蔵品を展示する企画を考える。また、市民の関心の集まるような話題性のある展示にする。	二次評価の要否 不要
---	---------------